



アイドリッグ脳科学研究センター
芸術文化学部 芸術院
コラボレーション



脳科学のための乾漆寓意像

新谷 仁美

10×100×40cm

PLA・麻・漆・螺貝・象牙
和紙・金・銀

型に麻布を漆で貼り重ね素地を造形する乾漆技法によって、かつては盛んに興福寺の阿修羅像に代表されるような信仰のための像が作られてきた。今回は脳科学を象徴する乾漆像を制作するべく、乾漆芯材の造形を熱溶解積層方式の3DプリンタでPLA樹脂（植物を原料とする生分解性プラスチック）を用いておこなった。

今作は脳の記憶をつかさどる海馬を一對のタツノオトシゴ（Seahorse）に見立て脳科学の未来を暗示させる試みである。馬のモチーフは古くから多様な民族・文化によって意味づけがおこなわれてきた。その中でも多くの物語に共通する主要人物を乗せ運ぶ性格に着目し制作した。